

シリーズ・世界の図書館(10)

ケベック州立図書館訪問記

久松 薫子*

1. はじめに

2008年8月9日から16日まで、カナダ東部ケベック州の州都ケベックシティとモンリオールを短期海外研修のために訪問した。

ケベック州は、カナダ連邦を構成する10州の中で最大の170万平方キロメートル、日本の約5倍の面積を有しており、湖沼、セントローレンス川をはじめとする河川、壮大な森林など、自然環境に恵まれた土地である。

気候は日本より冷涼で、夏季最高気温の平均は23℃、冬季はマイナス30度まで下がる。私が訪れた8月もお盆の日本にくらべ空気がさっぱりと乾燥し、雨が降ると肌寒いくらいの気温にまで下がった。

人口は約770万人で、住民の多くがフランス系だが英国、アフリカ、ラテンアメリカ、アジア地域など様々な地域からの移民を受け入れ、文化の多様性を重んじる多文化政策を州として採用している。公用語はカナダの中で唯一フランス語を使用し、ヨーロッパとアメリカ大陸の交差点とも呼ばれる。

こうした背景からユニークな文化・芸術活動を生んでおり、とくにパフォーマンス・アーツがさかんで街中でも大道芸をよく見かけた。主要産業には航空宇宙、通信、IT、バイオテクノロジーがある。

今回の研修の目的は、8月10日から14日までケベックシティで開催さ

* ひさまつ・くにこ／明治大学学術・社会連携部図書館事務室図書館管理グループ

れた IFLA（国際図書館連盟）の世界大会への参加と、本学ケベック文庫¹蔵書充実のためのケベック州立図書館の見学と出版状況調査である。

ケベック文庫は、蔵書の更なる充実が望まれる状況であるが、国内書店を通じた、また自力で収集するケベック関連図書の出版情報は十分でなく、蔵書に適した図書と図書情報の入手が課題となっている。このため、改善の糸口をつかむべく、ケベック州政府在日事務所を通じ、ケベック州立図書館の見学を申し込んだ。ケベック州政府および州政府在日事務所にはケベック文庫設立・維持に日ごろから多大なるご協力をいただいております、今回の研修のための種々の手配や情報収集にも多大なるご尽力をいただいた。

ケベック滞在5日目の2008年8月14日にモンリオールにある *Bibliothèque et Archives Nationales du Québec* を訪問した。私が宿泊していたのはケベックシティだったので、ここから朝 VIA という特急に乗り約3時間かけてモンリオールに移動した。

2. ケベック州立図書館の概要

ケベック州立図書館の正式名称は *Bibliothèque et Archives Nationales du Québec* で略して BAnQ（バンク）と呼ばれる。2006年に *Bibliothèque Nationales du Québec* と *Bibliothèque et Archives Nationales du Québec* が統合されて現在の形式となったもので、ケベック州最大の公共図書館である。規模やその使命などからケベックで最も重要な文化的拠点と位置づけられ、州内の中央図書館的役割と同時に、納本制度の受け入れ先として、ケベック州に関する全資料の保存館的役割を担っている。

私が訪問したのは、中央図書館とそれに連続した建物の中にある保存センターである。BAnQ という呼称には厳密に言うと州内のほかの9つのアーカイブセンターも含まれるのだが、ここでは BAnQ はこの中央図書館+

ⁱ カナダ・ケベック州に関連した資料すべて（図書中心）を収集対象とする文庫。2005年にケベック州政府在日事務所代表と学長の間で協定書が取りかわされて設置された。駿河台キャンパス中央図書館内で公開されている。国内ではケベック関連の資料を収集している唯一の機関であるため、明治大学図書館としては特色あるコレクションのひとつとして位置づけられ、またケベック研究にとっては関連資料を一同に利用できる場となっている。

保存センターをさすことにする。

9 つというアーカイブセンターの多さは、ケベックの歴史遺産保存に對する強い関心をうかがわせ、ひいてはケベックの愛国心の強さを感じることが出来る。これは図書館に限らず滞在中様々なところ、たとえばフランス語へのこだわりや歴史的町並みの保存などからも感じたことである。

図書館見学時一番初めに、写真撮影の可否を尋ねたところ、禁止とのことであった。その代わりとして見学者には図書館の写真に掲載した CD-ROM を提供してくれるのだが、本稿へのその写真の掲載許可は下りていないため、残念ながらここでは写真でご紹介できないことを先にお断りしておく。写真は図書館のホームページを参照されたいⁱⁱ。

3. 建物

BAnQ は 2005 年に完成した新しい建物である(写真 1)。地上階+4 階(日本で言うと 5 階建てだが、1 階部分を地上階と呼び、2 階部分が 1 階と呼ばれている)および地下 1 階の建物で、地上部分に資料を配置し、地下にはギャラリーやホールなどの施設がある。地下は地下鉄の Berri-UQAM 駅とつながっており、この土地の冬季の厳しい寒さでも外に出ることなくアクセスできるようになっている。

内部は公共図書館部分である中央図書館と、保存センターの二つの部分からなる。保存センターは入り口から見て奥のほう 1・2・3 階部分をあてており、1 階の入り口が中央図書館内部から通路でつながっている。保存センターの部分は独立して成り立っており、この入り口から入るとひとつの建物のように上階へ展開していた。強い照明は用いず全体としてほの暗く、家具は中央図書館と異なる独自のものを配していた。

もう一方の中央図書館には地上階から 4 階までがあてられ、床面積は 33,000 平方メートルを有する。全体的に保存センターより明るい雰囲気で開催感を持っている。建物中心部に閲覧机・書架スペースを配し、その外側をゆったりとくつろげるような閲覧スペースが囲む。中心部分の閲覧

ⁱⁱ http://www.banq.qc.ca/portal/dt/accueil.jsp?bnq_langue=fr

机・書架スペースは障子のような格子状の壁で包まれ、閲覧スペースとの区分を明らかにしつつ採光と開放感を確保していた。

各階はガラスの側壁のついた階段で結ばれている。それはちょうど中央図書館の建物の中央部分に設置されていて、それを下から眺めるととても美しい連続性を持った空間になっていた。

館内の家具は建物と同様すべてコンペによってデザインが決定したオリジナルだそうである。床には LAN、電源コンセントが埋め込まれ、どこにでもパソコンを設置できるようになっている。床のところどころに銀色のふたのようなものがあるのでそれが何か問うと、床に埋め込まれたエアコンの吹き出し口ということだった。

なお、建物の写真は BANQ のホームページ上の、建物に関するページで詳しく紹介されているⁱⁱⁱ。



写真 1 ケベック州立図書館

ⁱⁱⁱ http://www.banq.qc.ca/documents/a_propos_banq/renseignements_generaux/grande_bibliotheque/Construction_EN.pdf

4. 統計

中央図書館の 2008 年のデータを見ると、図書が約 151 万冊、雑誌 125 万タイトルのほか視聴覚資料 22 万点、地図 3400 点、視覚障害者用資料 15 万 2 千点、マイクロ 47 万点を有する。年間 286 万人の利用者が訪れ、461 万点の資料が貸し出される。レファレンス件数は年間 25 万件、講習会等への活動の参加者は 1 万 8 千人を超す。閲覧席は 2000 席、端末は 420 台、職員数は 544 人である。

一方、保存センターの 2008 年データによると図書約 39 万冊、雑誌 226 万タイトルを有する。マイクロ、視聴覚資料、地図のほか楽譜、舞台芸術のプログラム、画像資料（ポスター、絵葉書、複製画など）も数多く取り揃えており、州の文化遺産保存センターとして機能している。

5. サービス

公共図書館として必要な貸出・予約・延長・レファレンスなどはもちろんすべてそろっていたが、それらに加え、特徴的だったものをいくつか挙げる。

5.1. 電子サービス

サービスの多く、たとえば貸し出し延長、予約などはオンラインで来館しなくても出来るようになっている。

また、データベースや電子ジャーナルといった電子資料のサービスは、ケベック住民であることを確認の上配布されるアクセスキーを入力すると、利用できるしくみになっている。また、館外からのアクセスも、利用可能な電子資料に限りはあるものの、事前登録をすれば可能である。その内容は数・質ともに非常に充実しており、本学で契約している学術的な電子ジャーナルやデータベースも数多く含まれ、これほどのものが簡易な手続きで平等に無料で開放されていることに驚きを覚えた。

5.2. 求職相談カウンター

2 階の社会科学・ビジネスフロアには平日夕方以降と休日に州政府事務所スタッフが在席する求職相談カウンターがある。このカウンターがここにその時間帯にある理由は、州政府本部が閉まるこの時間帯/日にも、必要な人にサービスをするためだそうである。ビジネスサービスのみならず求職相談の場も提供するところは珍しいのではないか。

5.3. 多言語コーナー

ケベック州が多文化政策を採用していることを反映して多言語資料をそろえたコーナーがあり、児童書にも英仏語以外資料がそろえられていた。また、Language laboratory というヘッドフォンで音声聞きながら各種言語を無料で学べるコーナーがあり、ここで英仏語も学べるようになっていた。

しかし、多言語コーナーは書架 2 列程度の規模で、また移民の国であるので様々な言語の図書が英仏語と同様に配架されていることを私自身は予想していたので、コーナーの存在も少し意外であった。それよりもフランス語の占める割合の大きさが予想以上で、「公用語」で統一している姿勢の強さを感じた。

5.4. 保存センター

保存センターは貴重書を集中的に配置しているにもかかわらず、入り口で荷物と上着を預けるだけで、誰でも、ケベック州住民か否かにかかわらず閲覧することが出来る。こうした方針は貴重な資料であっても公共財産として共有するという意識が強いことを伺わせた。ちなみに 1920 年までは開架、それより古いものは閉架に配置されている。

5.5. 家系調査

図書館のサービスのひとつとして「家系調査」があった。これは自分の祖先が誰でどこから来て、という家系を申し込みに応じ図書館が調査するサービスである。日本人である私自身の感覚ではそれは個人情報で調査を

するほうもされるほうも敬遠することが予想され、公共図書館でそれを行うことは考えられない。これについて質問すると、移民の国であるため自分のルーツを知ることは重要で、またアーカイブセンターで保存されている資料などから調べればかなりつかめるものである、とのことであった。

6. 広報

地上階の入り口付近には、図書館のサービスや資料を紹介するパンフレットが多数置かれていた。サービス紹介など同じ種類のものはデザインを統一して異なる色や写真を使い、工夫が凝らされており美しかった。

またエントランスホールではその天井高を生かし、宣伝内容を表示した帯状の布を上から何本も吊り下げていた。その内容はさまざまであったが、色調がパンフレットで使用しているものを共通しており、アピールの仕方として全体として統一感が取れていた。

広報の運用について質問すると、広報担当職員をおき、デザインは外注のもののみならずこの職員みずから手がけたものも多数あるとのことであった。

広報はその機関のイメージを決定する要因のひとつとなる。その美しさやデザインは参考になるものであった。

7. おわりに

訪問し、見学している最中もひっきりなしに利用者が訪れ、活気にあふれているが静寂さは保たれていた。格子状の壁が効果的に機能しているためではないかと思われた。

図書館建物内部の地上階にカフェがあり、見学前に昼食をとった。そこでくつろいだ数十分の間に、自転車で図書館にやってくるまずサンドイッチで腹ごしらえをしさっそうと図書館へ向かった若い女性、図書館利用を終えてカフェに休憩しにきた車椅子の男性と盲導犬連れの女性のカップル、背筋をまっすぐ伸ばしレストランでひとりで食事を取る年配の男性など、さまざまな人が行き来し、人々の生活の中でこの図書館を含めた空間が利

用されていることが感じ取れた。ちなみに空調で調整しているのか、図書館のほうでは食べ物・飲み物のにおいはまったく気にならなかった。

見学の全体的な印象としては「美しい図書館」である。そしてそれは質は高いがよそよそしくなく、親しみやすさと快適さ・機能性を兼ね備えた美しさだった。機能性を優先させて美しさはその次になってしまう建物もあるが、ここは美観に優先順位をかなり高くつけて設計されているのではないかと思われた。この図書館が身近にあるモンリオール市民をうらやましく感じた。

また、これは図書館だけのことではないが、フランス語の優位性は予想以上だった。図書館でそろえている本はほとんどがフランス語、パンフレットなどの案内もフランス語だけというのも多かった。街中でも、カナダであるので英語は当然通じると思ったが、特にモンリオールでは通じないあるいは通じても部分的、また案内表示もフランス語だけということが多かった。誇り高きフランス語圏、ということはよく言われているが、生活のシステムにもそれが反映しているところにその強さを感じた。

アポイントメントを取り、私に應對してくれた職員の方は、もちろん母語はフランス語だったけれど、非常に聞き取りやすい英語でわかりやすく説明してくれ、質問にも丁寧に答えてくれた。とても満足してお別れの挨拶をし図書館を後にした。見学時を思い出している今も感謝の念でいっぱいである。